
本⽇ご説明のポイント

2020年5月8日

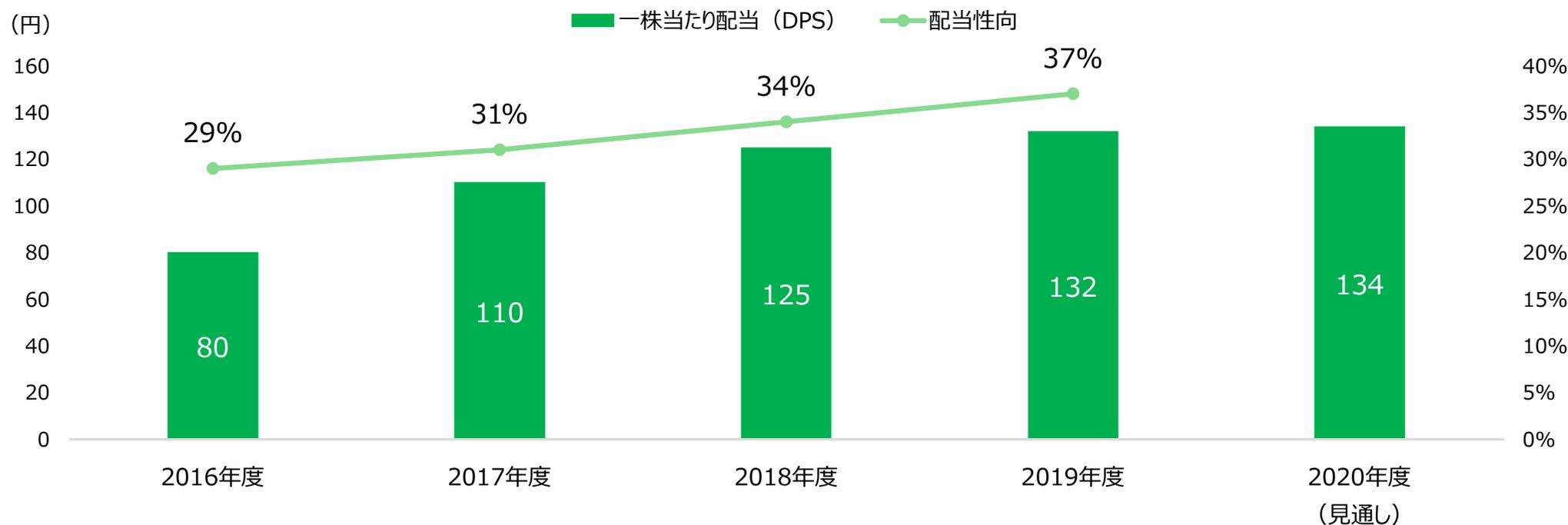
三菱商事株式会社

垣内 威彦

業績と株主還元

- 1** 2019年度実績は**5,354億円**で修正見通しを達成。配当は**予定通り132円**
- 2** 2020年度利益見通しは新型コロナウイルス禍の影響見極め後に速やかに公表
配当見通しは、配当総額を維持し、自社株買いによる株数減少を踏まえ、**134円に2円増配**
- 3** 不透明な環境においても、財務規律を維持し、
事業ポートフォリオは環境悪化への耐性を堅持していることから、**累進配当を継続**

2016年度以降の1株当たり配当額及び配当性向の推移



新型コロナウイルス禍

1 新型コロナウイルス禍による影響

- 世界的に感染拡大が続く中、感染収束時期は現段階では見極め困難。
需要と供給のダブルショックを受けた経済の回復には、**当初想定以上に長期戦を覚悟**する必要もあり得る。
- 影響が顕著な分野は、自動車産業及び油価急落の影響を受けるエネルギー関連分野。**
自動車関連は、各国のロックダウン等により需要が蒸発。関連する素材分野にも影響が波及。
油価は、需要収縮に、OPEC・ロシア・米国の覇権争いが絡み不安定な動き。生産調整や収束後の需要回復による**正常化には時間を要する可能性**。
- 食料・生活必需品等の生活に不可欠な**ライフライン関連は、需要が比較的安定**。経済活動における省人化、自動化、リモート化等のニーズは堅調。

2 新型コロナウイルス禍がもたらす環境変化

<グローバル化の変化>

- 米中の覇権を巡る対立や各国の自国主義に基づく行動が進み、**地政学的な不確実性が一層高まる**ことが懸念。
- グローバル化は従来の効率化追求から変化**する可能性。効率性に加え国民の安全、国家の安定の重要性を再認識。グローバル化の長所・短所を見極め、自国内で対応すべきことと、グローバルな繋がりの中で互いに共存・共栄しあうべきことの整理が必要になることを想定。
- 具体的には**サプライチェーンの再構築**。国内は、食料等のライフライン関連で自給力強化に向けた動きが進む可能性。
一方、グローバルには、従来の判断基準である各国の地政学的リスク、産業・社会構造等に加え、有事対応力も踏まえた検討が進む見通し。

<インテリジェンスとデジタル化>

- グローバル化の変化に対応していく上での**キーワードは信頼関係に基づくインテリジェンスとデジタル化**。
国境を越え、産業・分野を越え、柔軟且つ双方向な連携を支えるインフラとして、不可欠な要素になる見込み。
- 自然との共存、安全最優先が再認識される中、デジタル化が原動力となり**働き方や都市への一極集中にも変化**の動き。